

仲秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

「苗字の日」 9月19日



1870年に戸籍整理のため、「平民苗字許可令」という太政官布告により平民も苗字を名乗ることが許可された。しかし市民は苗字がなくても不自由しないので苗字を名乗ろうとはせず、1875年2月13日（苗字制定記念日）に、すべての国民が姓（苗字）を名乗ることが義務づけられました。

9月の誕生花・記念樹

9月8日 ゲッケイジュ

「勝利」

かぐわしい香りのする常緑樹です。葉はベイリーフと呼ばれ、乾燥させたものをスパイスや料理の香りづけなどに使います。実は健胃薬等にも利用されます。
記念樹にふさわしい樹木として、よく植えられます。



9月17日 シロバナハギ

「思案」

ハギは一般に紅紫色の花をつけますが、本種は純白の小花が特徴です。ハギの仲間には日本に12種あるといわれ、いずれもよく似ていて判別しにくい。本種はビッチュウヤマハギの白花品種。



9月21日 サワフタギ

「緊張感」

世界中の樹木の中でも、実の美しさはトップクラスです。なかなか目にする機会は少ない樹木ですが、日本に自生しているので、機会があればぜひ観賞してください。



9月27日 キンモクセイ

「謙虚」

香りが特徴的な花木として有名です。日本の家の庭には数々の樹種が植えられていますが、キンモクセイはもっとも人気のあるもののひとつです。



カエデはカエルの手が由来！？



秋のイベントの紅葉狩り。その中でも有名なカエデですが、名前の由来をご存じでしょうか？

「カエデ」とは蛙の手に似ていることから「蛙手」が訛ったもので、「イロハカエデ」というのは7つに分かれている葉っぱがイロハニホヘトと数えられることに由来します。このイロハカエデの紅葉が特に美しいことから、いつしか「モミジ」の代名詞として親しまれるようになったのです。

みどりの豆知識



みどりのクイズ



本格的な秋に向けて実をつける樹木

どの樹木がどんな実をつけるのか当ててみましょう！

※答えは下段にあります

①



②



③



④



害虫の大発生（イラガ編）

<被害>

若齢幼虫期には葉裏から葉肉だけを摂食するので被害痕が網目状に見える。ヒロヘリアオイラガ、ヒメクロイラガは中齢期まで集団で生活するのでこの時期は葉裏に幼虫が並んで食害している。幼虫が大きくなると食害は葉全体に広がり、枝に葉の主脈だけが残った状態になる。イラガ類は、成木園では大発生しない限り生産上の実害はないが、農作業中に幼虫の毒針に触れて刺されるので嫌がられる。

<発生>

発生は年1～2回（6～7月、8月以降）カキ以外多くの落葉果樹、街路樹などで発生する。多くの種類は堅い楕円形の繭（1cm程度）を作り中で越冬する。

<防除>

通常の管理を行っている場合は同時期の他害虫に対する薬剤散布で防除されているケースが多い。



もしイラガを見つけたら・・・

白い点や葉の食べられた痕を見つけたら、葉の周りをチェックしましょう。体中に刺の生えた幼虫を見つけたら、葉や枝ごと切り取り、すぐに処分します。駆除する際はゴム手袋をはめるなどして、幼虫に素手で触れないようにしましょう。中曽根造園では薬剤散布を行っているので、大切なお庭にイラガを見つけたらご連絡ください。